

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：32616

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21700606

研究課題名（和文）：体育授業を中核とした肯定的な学級集団の育成についてのアクション・リサーチ

研究課題名（英文）：Action research on the classroom building placed PE class as the core subject

研究代表者

細越淳二（HOSOGOE JUNJI）

国土館大学・文学部・准教授

研究者番号：70365526

研究成果の概要（和文）：

本研究では、高橋（2010）の「体育授業の基礎的条件」および河村（2010）の「集団を規定する要因」をもとに、体育授業と学級集団づくりを結びつける要点を考察するとともに、②実践者と研究者の共同によるアクション・リサーチの手法を用いた授業実践を展開し、体育授業と学級集団づくりの関係の生成過程を記述分析した。加えて、その過程を通して、実践者と研究者の共同によるアクション・リサーチの意義と役割について考察した。

研究成果の概要（英文）：

In this study, it were found three points as bellows;

it was examined theoretically the relationship between the PE class and the classroom building,

it was analyzed the points to bring about the relationship between the PE class and the classroom building through action research,

it was examined the meanings of action research by practitioner and researcher cooperatively.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,500,000	750,000	3,250,000

研究分野：身体教育学

科研費の分科・細目：体育教育

キーワード：アクション・リサーチ、肯定的な学級集団づくり、体育授業、共同研究者

1、研究開始当初の背景

(1) 当該領域における先行研究の概要

体育授業と学級経営（学級づくり）については、これまで多くの教師によって経験的に語られてきた。

この両者の関係について日野ら（2000）は、「学級集団意識調査票」を開発してこれと

「体育授業態度評価票」（高橋ほか，1994）との相関を見ることから、子どもの体育授業に対する態度と学級集団に対する意識との間に有意な正の相関関係があることを確かめた。以後、細越・鋤柄（2001）や細越（2006）も同様の調査研究を行い、一般的なクラスではこの両者の関係が年間を通して持続され

るが、特に体育授業を中核に学級経営を展開している教師のクラスでは、学期の進行に伴って両者の結びつきが強くなることなど、より具体的な事実関係を明らかにした。

(2) 当該領域における今後の課題

しかし、その結びつきが、どのような教師の働きかけや教師—子どもの人間関係の中で生成されるのかについては、多くの事例を対象に精緻な観察分析を行う必要があった。

また、教師による日々の授業の計画—実施—修正といったサイクルを、より効果的なものにするために、研究者と実践者が「共同研究者」として学問的知見・実践的知見を重ね合わせながらアクション・リサーチを遂行し、その意義についてのエビデンスを示すことも不可欠であると考えた。

(3) 方法論の検討

加えて、体育授業と学級経営の関係は、短期間のみでその成果を求めるものではなく、中長期的なスパンで記述分析をする必要がある。また実践者1人で授業計画—実践—反省・評価というサイクルに学術的な方法論を当てはめて研究を進める以上に、研究者が共同研究者として定期的なカンファレンスを行う中で計画—実践—反省・評価のサイクルに加わる方が、より効果的な実践の創出と先の研究課題の解決を見ることができると考えた。

そこで本研究では、体育授業を中核とした肯定的な学級集団の育成をめざした取り組みを、研究者と実践者の共同によるアクション・リサーチという形で展開しようとした。

2、研究の目的

以上のことから本研究では、次の3点を目的に取り組みを展開することにした；

- ①体育授業を中核とした肯定的な学級集団育成の結びつきおよびその関係を生み出す要点について理論的な考察を行うこと。
- ②アクション・リサーチの方法論を適用した実践を行うことから、体育授業を中核とした肯定的な学級集団づくりの要点を導出すること。
- ③当該領域におけるアクション・リサーチの意義について検討すること。

3、研究の方法

(1) 理論研究

体育授業と学級経営（学級づくり）に関する先行研究を整理して、体育授業と学級経営（学級づくり）の結びつきの妥当性について考察するとともに、両者の関係を生み出す要点についても検討することにした。

(2) アクション・リサーチの展開

本研究では、秋田ら（2000）が行った現場教師とのカンファレンスを継続することによるアクション・リサーチの手法を参考にして、実践者と観察者（研究者）が共同研究者という立場で、その時々々の学級経営上の課題（学習規律の確立や子どもの人間関係的側面の問題など）をカンファレンスによって明らかにし、その課題の解決に寄与することを意識した体育授業を計画・実践するというサイクルを構築することから、子どもにとって意味ある体育授業が、肯定的な学級集団の育成にどのように寄与するのかについて検討しようとした。

(3) 収集したデータの分析

本研究では、肯定的な学級集団を育成することを意図した体育授業を展開した結果、子どもの意識や行動がどのように変容していくのか、量的・質的なデータを分析解釈することにした。具体的には、体育授業単元が終了するごとに、高橋ら（1994）による「体育授業態度評価票」と日野ら（2000）による「学級集団意識調査票」を実施して、体育授業と学級集団の結びつきについて、数量的にその関連性を継続的に確かめた。加えて、フィールドワークやインタビューを通して、体育授業を中核にした肯定的な学級集団の育成に関する要点を整理しようとした。

4、研究成果

分析の結果、以下のような研究成果が得られた；

体育授業と学級集団づくりを結ぶ共通項を高橋（2010）の「体育授業の基礎的条件」および河村（2010）の「集団を規定する要因」に求めて検討し、クラスの「ルール」（約束事）と肯定的な「リレーション」（人間関係）の確立が、学級集団の育成において共通する前提であることを導いた。そして体育授業の特性を踏まえて、この「ルール」「リレーション」の確立された中で意味のある体育的内容の課題解決が行われることによって、体育授業が学級集団づくりに対して、より大き

な影響力をもつことを指摘するに至った。

②本研究では、アクション・リサーチの方法論を適用して、年間を通じた実践、1単元レベルでの実践、学校全体を通しての実践など、複数の実践を記述分析した。

その結果、体育授業場面と教室場面における教師の「ルール」と「リレーション」に関する働きかけの具体的事実が確認されるとともに、体育授業場面における教師の働きかけの具体的事例を明らかにするに至った。

このような実践の結果、ほぼすべての事例において、子どもたちは体育授業に対しても学級集団に対しても、肯定的な態度・意識を示すようになり、体育授業と学級集団づくりの相互関連的な高まりの事実を明らかにすることができた。

③アクション・リサーチの意義については、本研究における実践研究を通して、佐藤（1998）、秋田ら（2000）が示唆するように、研究者と実践者が同じ地平に立ち、「共同研究者」として授業改善に取り組むことは、実践者の立場からすると、自分一人では捉えきれない部分まで研究者の目も用いながら子どもの実態を把握でき、その上で次善の策を講じることが可能になること。しかもより適切な改善策を合議の上、導出できることが確認された。研究者にとっては、これまで示されてきた多くの知見を、実際の教育実践に適用することで、従来の知見をより効果的に応用することができるとともに、それによって新たな実践的知識を蓄積することができるといった利点があげられた。

5、主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計8件）

鈴木和司・細越淳二，体育授業を中核に据えた学級集団の育成についての事例的研究～小学校5年生1クラスを対象としたフィールドワークを通して～，日本スポーツ教育学会第30回記念国際大会プロシーディングス，査読有，2010，365-371

松井直樹・細越淳二，「運動生活」の実現を目指した体づくり運動の実践―意のままに動ける体づくり・動きづくりからはじめよう！―，体育授業研究，査読有，第14巻，2011，10-19

大塚亮介・細越淳二，運動技能水準下位児に対する効果的な学習指導の検討について～学習行動と意識変容および技能成果の分析から～，教育学論叢，査読無，第29巻，74-89

細越淳二・前橋力・鱧永慎太郎・佐野祐太・岡田晋平，小学校低・中学年の「体づくり運動」の授業モデルと学習成果の関係について，教育学論叢，査読無，第29巻，90-103

細越淳二・石田智久・高橋剛，小学校6年生における「ボール運動（ネット型）」の授業づくり～「バウンドアタックボール」の実践から～，教育学論叢，査読無，第29巻，104-124

細越淳二，体育授業を中核にした肯定的な学級集団づくり，体育科教育，査読無，第57巻第5号，52-53

細越淳二，低学年の体づくり運動，動きに合わせた声かけのポイントを教えてください，体育科教育，査読無，第57巻第12号，32-33

細越淳二，「多様な動きをつくる運動（遊び）」の授業づくり～授業づくりの3つの視点をもとにして～，こどもと体育，査読無，No. 158，10-11

〔学会発表〕（計4件）

阿部泰尚・細越淳二，小学校におけるゴール型ゲームのゲームパフォーマンスの分析―小学校3年生から5年生を対象に一，日本スポーツ教育学会第29回大会，2009年11月8日，長崎大学

角張友哉・細越淳二，子どもの動きづくりに関する実践的研究―T小学校の2年間の取り組みから―，日本スポーツ教育学会第29回大会，2009年11月9日，長崎大学

高岡早希子・松井直樹・鈴木和司・細越淳二，子どもの「動きづくり」をめざしたO小学校の2年間の取り組み～学校と大学の連携による成果検証を通して～，第14回体育授業研究会，2010年8月9日，奈良教育大学

鈴木和司・松井直樹・細越淳二，体育授業を中核に据えた学級集団の育成についての事例的研究～小学校5年生1クラスを対象としたフィールドワークを通して～，日本スポーツ教育学会第30回記念国際大会，2010年10月11日，国立青少年オリンピック記念総合センター

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6、研究組織

(1)研究代表者

細越 淳二 (HOSOGOE JUNJI)

国士舘大学・文学部・准教授

研究者番号：70365526

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：